

大学ポートレートステークホルダー・ボード  
2022.10.28

資料 7 - 5

令和4年度大学ポートレート  
ステークホルダー・ボード  
令和4年10月28日

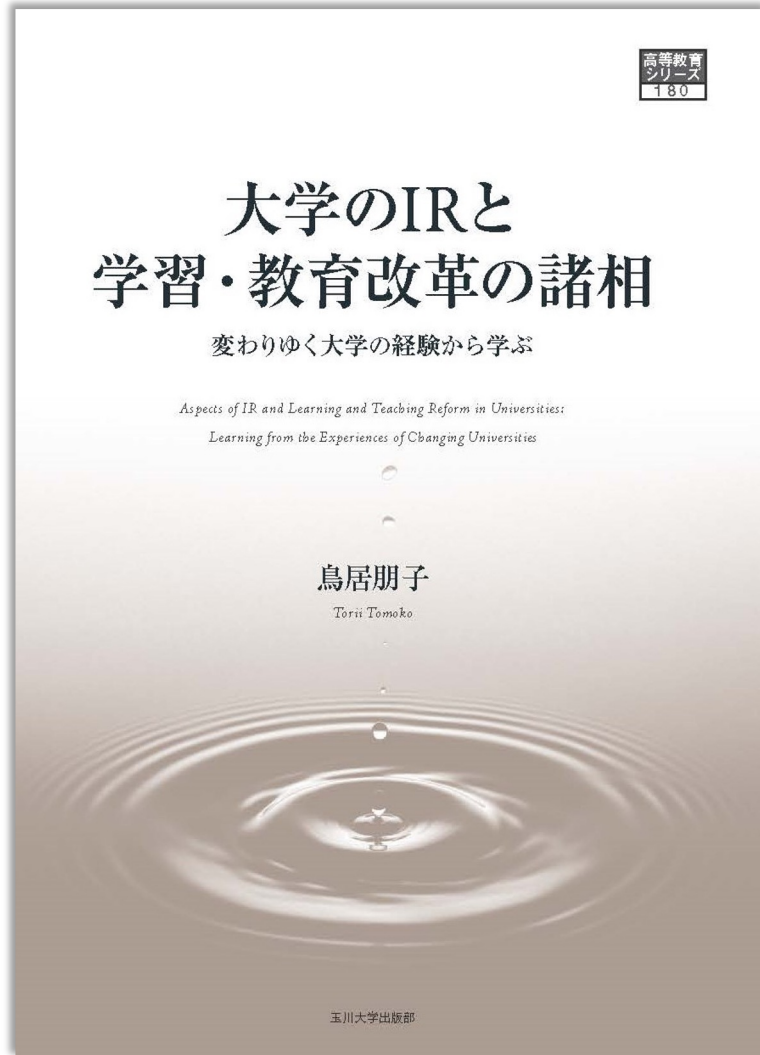
# 大学ポートレートに関する所感

ーパンデミック影響下の大学IRおよび教学マネジメントの視点からー

鳥居 朋子

立命館大学教育開発推進機構

# 自己紹介



## <研究領域等>

- ・ 高等教育マネジメントに関する研究やIRの開発に関する研究
- ・ 立命館大学にて、2009年度より教学IRや学生調査および卒業生調査の設計・実施・活用、内部質保証システムの構築等
- ・ 科研費等で、大学のIRと教育情報の実践的活用に関する研究や教育プログラムの評価及び改善の好循環システムに関する研究等を遂行

## <主な研究成果>

- ・ 鳥居朋子（2021）『大学のIRと学習・教育改革の諸相：変わりゆく大学の経験から学ぶ』玉川大学出版部。
- ・ 中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百編（2013）『大学のIR Q&A』玉川大学出版部 等。

# Institutional Research (IR)

- 機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われるリサーチ

Saupe, Joe L., 1990, *The Functions of Institutional Research*, 2nd edition. Association for Institutional Research.

# パンデミック影響下における大学の経験とIR

- ・ コロナ禍の緊急対応が、大学の学習・教育の文脈におけるDX推進の気運を醸成
- ・ 教職員のニーズに応えるオンラインFD等が一気に進展
- ・ 急速な学習・教育活動のオンライン化やリモートワーク。メンタルヘルスや情報格差等の問題が顕在化
- ・ 学生個人の家計や授業料収入に依存する高等教育機関の財政に打撃
- ・ 量的・質的データの大量蓄積、データの透明性、リアルタイムの共有へのニーズ
- ・ 公正 (equity) の視点、学生個人のアイデンティティを意識した分析
- ・ 大学経営幹部だけではなく、IRが学内のデータ関係者と協力的関係を強化
- ・ 学生の目線に立った問いに答えるデータやレポートの提供

# 大学ポートレートの目的に照らした所感

①大学の多様な教育活動の状況を、国内外の様々な者にわかりやすく発信することにより、大学のアカウンタビリティの強化、進学希望者の適切な進路選択支援、我が国の高等教育機関の国際的信頼性の向上を図る。

②大学が自らの活動状況を把握・分析するために教育情報を活用することにより、エビデンスに基づく学内のPDCAサイクルの強化による大学教育の質的転換の加速、外部評価による質保証システムの強化を図る。

③基礎的な情報について共通的な公表の仕組みを構築し、各種調査等への対応に係る大学の負担を軽減することにより、大学運営の効率性の向上を図る。

# 根拠に基づく戦略と大学経営幹部のニーズ

- 人類史上かつてないスピードで生み出されているデータ (Gagliardi and Johnson 2019)
- LMS等に蓄積されるデータで、捉えにくかった学生の授業内外の学習行動や学習成果を可視化。根拠として学習・教育の改善に活用できるという手応え
- 大学リーダーは過去データの記述的な報告では満足しない (Gagliardi and Johnson 2020)
  - 不確実な未来に向けて教育機関を位置付けるための予測
  - 希少な資源を効果的に活用するための学生の成功、パフォーマンス、コストに及ぶ統合データ
  - プログラムやサービスに関連する日常的な変動を理解するためのリアルタイムの運営データの利用
- 根拠に基づく戦略への即時的な支援

Gagliardi, Jonathan, S. and Johnson, Gina, 2019, "Transformational IR for Student Success," *New Directions for Institutional Research*, 184: 91-103.

Gagliardi, Jonathan, S. and Johnson, Gina, 2020, "The Evidence Imperative: Reflections on How Volatility and Data Are Reshaping the Relationship Between IR and College and University Presidents," *New Directions for Institutional Research*, 185-186: 105-122.

# IRと経営幹部や関係部署との連携

- かつてないほど大量のデータの可能性を最大限に引き出すためには、適切な文化、過程、技術が必要 (Gagliardi and Johnson 2020)
  - 根拠の文化 (culture of evidence) の定着には、IRが最高幹部とだけではなく、IT、ビジネス・財務、その他の重要なデータ関係者との協力的なつながりの強化が重要
- 大学運営の新常態、IR体制のあり方：中央教育審議会大学分科会「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について－教育研究機能の高度化を支える教職員と組織マネジメント（審議まとめ）」（2021.2.9）
  - 「IRを重要な基盤として位置付け、教学だけの問題ではなく、研究、社会貢献ほか、人事・評価・財務などの管理運営までも含めた大学全体に関わる情報や課題を横断的かつ俯瞰的に収集・分析する『大学運営IR体制』」

# WE EARN

## ALUMNI - WORKING - EARNING



### ALUMNI

Penn State graduates since 2001 from a variety of campuses and programs.

### WORKING

Penn State alumni working in Pennsylvania and across the United States

### EARNING

First, fifth, and tenth year earnings post-graduation from Penn State.

### National Results

- 学生の負債額の上昇、州経済発展への貢献
- 「学位の価値 (value of degree)」の検証
- 投資収益率 (ROI) の視点から卒業生の収入に関する管理データを分析
- インタラクティブ・ダッシュボード「We Earn」
  - キャンパス別、カレッジ別、学位レベル別、プログラム別
  - 卒業後1年目・5年目・10年目の収入、STEM分野留学生の州内就労状況等
  - 男女別、人種別等 (学内限定)



# 「問い」に応じたデータ整備と活用

- 在学生や保護者、進学予定者の参考となる情報提供
  - 「ペンシルベニア州での収入のうち、どれぐらいが学生ローンの返済に充てられているのか？」
  - 大学院進学後のROI：付加的な収益の可能性、生涯における価値の可視化
- プログラム別の負債を抱える学生の割合：大学が介入できることからの検討
  - 包摂・公正・多様性の視点から格差是正方策の検討に活用
- 州労働産業局等の学外機関とのパートナーシップ
  - ただし、州外の労働市場で働くことを前提とした専攻の「価値」を見定めることに限界（映画、演劇、技術系等）
- リアルタイムの情報によって環境急変期の適応を高めていく必要性（The Pennsylvania State University 2020）

# 大学ポータルサイトに関する所感

- ・ ユーザーの視点に立ったデザイン
  - ・ 一覧機能を備えたカタログ（ファクトブック）的な性格
  - ・ スマートフォン画面の可読性・利便性
  - ・ 国公、私、および国際発信版と分かれていること（見た目も含む）が発する隠れたメッセージ
- ・ 即時的なデータ・情報の提供機能
  - ・ データ更新やリンクURLのメンテナンス頻度
  - ・ 外部サイトの階層構造、ユーザー別入口（誘導）との対応
- ・ 大学の教育や学位の価値を可視化し得る指標や項目
  - ・ 卒業後の収入？（奨学金の返済見込み）
  - ・ 生涯の友や師との出会い？
  - ・ 自己の発達や成長におけるウェルビーイング？
  - ・ 明るい未来が拓けそうな見通し？
  - ・ その他？
- ・ その社会で支持・重視されている価値や正義（social justice）と対応した「問い」
  - ・ 格差是正
  - ・ 多様性・公正・包摂
  - ・ SDGs